

SBP: Small Business Package

NC1505BCK

— データ照合型 —



取扱説明書

2024年12月6日 第1.3b版

日栄インテック株式会社

目次

1. 用語について.....	3
2. 使用制限について.....	3
3. PC 動作環境.....	3
4. PC 設定.....	4
4-1. 設定の流れ.....	4
4-2. 「Active USB-COM ポートドライバ」のインストール.....	4
4-3. 「NC1505BCK 受信アプリ」のインストール.....	4
4-4. 通信モジュール使用の為のライセンス登録.....	5
4-5. 「NC1505BCK 受信アプリ」の設定.....	6
5. PC 側操作.....	7
5-1. 受信.....	7
5-2. HT 設定受信.....	8
5-3. HT 設定送信.....	9
5-4. ハンディプログラム更新.....	10
6. HT 側操作.....	11
6-1. 基本操作.....	11
6-2. メインメニュー.....	11
6-3. データ照合.....	12
6-3-1. データ照合の流れ(1:1).....	12
6-3-2. データ照合の流れ(1:N).....	13
6-4. データ確認.....	14
6-5. データ送信.....	15
6-6. 担当者設定.....	16
6-7. データ初期化.....	16
6-8. システム設定.....	17
6-8-1. 照合設定.....	18
6-8-1-1. 照合回数.....	18
6-8-1-2. 照合桁.....	18
6-8-1-3. 照合条件.....	19
6-8-1-4. NG 時取り扱い.....	19
6-8-2. データ保存設定.....	20
6-8-3. 送信後データ設定.....	20
6-8-4. バーコード設定.....	21
6-8-4-1. バーコード種一覧.....	21
6-8-4-2. JAN13,UPC-A.....	21
6-8-4-3. JAN8.....	22
6-8-4-4. UPC-E.....	22
6-8-4-5. ITF (Interleaved Two of Five).....	22

6-8-4-6. NW-7 (CODABAR).....	23
6-8-4-7. Code39	23
6-8-4-8. Code93	23
6-8-4-9. Code128,GS1-128.....	24
6-8-4-10. STF (Standard Two of Five)	24
6-8-4-11. GS1-Databar (RSS)	24
6-8-5. 端末ID 設定.....	25
6-8-6. 日時設定.....	25
6-8-7. 自動電源 OFF 設定.....	25
6-8-8. 音(パイプ)設定.....	26
6-8-9. 設定初期化.....	26
7. 販売者情報.....	27

1 用語について

本書に出てくる用語について、次の通り定義いたします。

- 「本システム」・・・NC1505BCK
- 「PC」・・・Windows パソコン
- 「HT」・・・NC1505BCK がインストールされたバーコードハンディターミナル(BHT-1500B)
- 「CU(クレードル)」・・・CU-AU1-15(PC とHT 間で通信するための通信ユニット)
- 「USB ケーブル」・・・PC とCU を接続する USB ケーブル
- 「マスタバーコード」・・・照合元となるバーコードのことです。
- 「データバーコード」・・・照合先となるバーコードのことです。

2 使用制限について

本システムでは、HT で収集したデータを PC に受信する為の、PC 側プログラム(NC1505BCK 受信アプリ)が付属しています。このプログラムを使用する際には、はじめにアクセスコードを登録する必要があります。

原則として、PC1台のみがインストール可能です。但し、やむを得ない状況により、その PC での使用が不可能になった場合は、別の PC にインストールして使用することができます。

弊社から御購入いただいた NC1505BCK 用の HT には、HT 側プログラムがあらかじめインストールされ、ライセンス認証がなされています。この HT 側プログラムは、機能改善などでアップデートされた場合、PC 側プログラム(NC1505BCK 受信アプリ)から最新プログラムを送信することができますが、送信できるのは、弊社から御購入いただき、既にライセンス認証されている HT のみが対象となります。

弊社以外で購入された HT へ PC側プログラムから HTプログラムを送信しても、そのHTでは NC1505BCK は動作いたしませんので、ご注意ください。

3 PC 動作環境

- Microsoft Windows 7(32bit/64bit)以降
- Microsoft Excel 2007 以降 ※出力形式にExcelを使用する場合

4. PC 設定

本システムを稼働させるにあたり、PC 側の設定が必要になります。ここでは、その設定手順について記載します。

※HT 側でデータ保存を行わず、PC で受信する必要がない運用の場合は、この設定は必要ありません。

4-1 設定の流れ

- (1) 「Active USB-COM ポートドライバ」のインストール(※導入時のみ)
- (2) 「NC1505BCK 受信アプリ」のインストール(※導入時のみ)
- (3) 通信モジュール使用の為のライセンス登録(※導入時のみ)
- (4) 「NC1505BCK 受信アプリ」の設定(※導入時、および運用方法変更時)

※(1)~(3)の PC 作業は管理者権限にてログオンし、実施して下さい。

4-2. 「Active USB-COMポートドライバ」のインストール

HT からPC へデータを受信するために、PC とCU を接続する必要がありますが、接続する前に、HT のメーカーが用意している「Active USB-COM ポートドライバ」をインストールする必要があります。「Active USB-COM ポートドライバ」は本システムCD 内の以下のフォルダにあります。

CD:¥ ActiveUSBCOM_J20105

インストールは、同フォルダ内の「setup.exe」を使用しますが、インストール方法については、同フォルダ内にある「ActiveUSBCOM_Installation_Guide_J.pdf」を参照いただき、インストールを行って下さい。

4-3. 「NC1505BCK 受信アプリ」のインストール

「Active USB-COM ポートドライバ」により物理的な接続が完了したら、次はHT からPC へデータを受信するためのプログラム「NC1505BCK 受信アプリ」をインストールする必要があります。「NC1505BCK 受信アプリ」は本システムCD 内の以下のフォルダにあります。

CD:¥ NC1505BCK 受信アプリ

- (1) 「NC1505BCK_Setup.exe」を実行し、案内にしたがってインストールを完了させてください。
- (2) インストールが完了すると、デスクトップ上に「NC1505BCK 受信アプリ」というショートカットができます。
※「NC1505BCK 受信アプリ」の動作には「Microsoft .NET Framework4.5」が必要になります。インストールされていない場合、自動的に「Microsoft .NET Framework4.5」のインストールも行なわれます。
※インストール中に「ユーザーアカウント制御」や「Windows セキュリティ」画面では、[はい]や[続行]など肯定応答を行って下さい。

4-4 通信モジュール使用の為のライセンス登録

HT とPC 間で通信を行う場合、HT のメーカーが提供しているツールを使用します。このツール使用の為、ライセンス登録が必要となりますので、ここで登録を行います。

- (1) デスクトップ上の「NC1505BCK 受信アプリ」をダブルクリックし、実行してください。まだライセンス登録が行なわれていませんので、画面下部にアラームが表示されています。[設定]ボタンをクリック(①)して下さい。
- (2) 設定画面が表示されます。左下の[ライセンス登録]ボタンをクリック(②)して下さい。
※ユーザーアカウント制御画面が表示される場合は[はい]をクリックして下さい。
- (3) アクセスコードに以下の値を入力(③)し、[登録]をクリック(④)して下さい。

アクセスコード:4964901159000390-9480353667

「アクセスコードの登録が完了しました。」という画面が出たら、[OK]をクリック(⑤)し、登録画面は右上の[×]をクリック(⑥)して閉じてください。設定画面で[戻る]をクリック(⑦)して、最初の画面に戻ると画面下部のアラームが消えたら、ライセンス登録完了です。

The screenshots show the following steps:

- ① クリック: Clicking the [設定] (Settings) button in the main application window.
- ② クリック: Clicking the [ライセンス登録] (License Registration) button in the settings dialog.
- ③ 入力: Entering the access code in the registration dialog.
- ④ クリック: Clicking the [登録] (Register) button in the registration dialog.
- ⑤ クリック: Clicking the [OK] button in the completion dialog.
- ⑥ クリック: Clicking the [×] button to close the settings dialog.
- ⑦ クリック: Clicking the [戻る] (Back) button in the settings dialog.

4-5. 「NC1505BCK 受信アプリ」の設定

「NC1505BCK 受信アプリ」の設定を行います。デスクトップ上の「NC1505BCK 受信アプリ」をダブルクリックし、実行してください。その後、[設定]ボタンをクリックし、右の設定画面を表示して下さい。



COM ポート	「Active USB-COM ポートドライバ」インストールで作成された COM ポート番号を指定します。Windows の「デバイスマネージャ」の「ポート(COM と LPT)」に存在する「DENSO WAVE Active USB-COM Port(COM?) - Connected」の、COM?の部分ポート番号となります。例えば、ここが「COM3」ならば、ここでは「3」を設定します。
保存方法	指定されているファイルが既に存在する場合に、追記するか上書きするかを設定します。
項目設定	出力する項目を選択します。デフォルトでは全てを出力する設定になっています。出力したくない項目がある場合は、出力する項目リストで、その項目をクリックして、[<]をクリックすると、出力しない項目リストに移動されます。出力したくない項目リストに出力したい項目がある場合は、その項目をクリックして、[>]をクリックすると、出力する項目に移動されます。出力する項目リストにあるものは項目順を変更できます。移動したい項目をクリックして、[▲]/[▼]で移動できます。
保存フォルダ	出力先フォルダになります。[参照]ボタンをクリックして、フォルダを指定してください。※必ず書き込み権限があるフォルダを指定してください。
ファイル形式	テキストファイルかExcel ファイルかを指定します。
csv 設定	拡張子、区切文字、囲み文字を選択します。区切文字とは、項目間を区切る文字です。通常、csv ファイルでしたらカンマが使用されます。囲み文字とは、各項目の両端に付加する文字です。

※設定内容は[戻る]をクリックした際に確定されます。設定内容がどのように反映されるか、必ず運用前に受信テストを行って下さい。

※Excelファイルは、そのファイル形式により件数制限があります。「保存方法」に「追記」を設定している場合、件数制限を超えないようにご注意ください。制限を超えるとファイル出力に失敗します。

5.PC 側操作

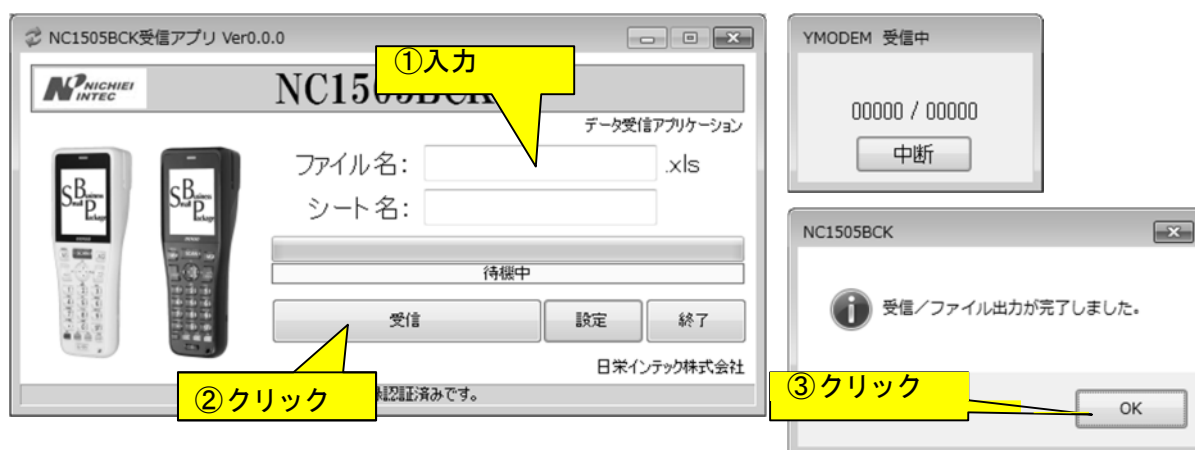
「NC1505BCK 受信アプリ」は次のことができます。これらの操作を行う前に、かならず「NC1505BCK 受信アプリ」の設定を行っておいて下さい。

- HT で収集されたデータを受信し、PC 上にテキストファイルか Excel ファイルで出力します。
- HT で設定された「システム設定」情報を、ファイルとして受信して保存できます。
- 保存された「システム設定」情報のファイルをHT へ送信できます。
- 弊社から提供するHT の最新プログラムを、HT へ送信できます。

5-1 受信

HT から収集されたデータを受信します。

- (1) ファイル名(Excel の場合はシート名も)入力(①)してください。この入力値は保存されますので、次回も同じファイルであれば、入力は1回限りです。
- (2) [受信]をクリック(②)すると、受信が開始され、「YMODEM 受信中」という画面で進捗が表示されます。受信が完了すると、次に受信ファイルを加工して、指定されたファイルへ出力を行います。その進捗は[受信]ボタン上のプログレスバーで確認できます。
- (3) 「受信／ファイル出力が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック(③)してください。



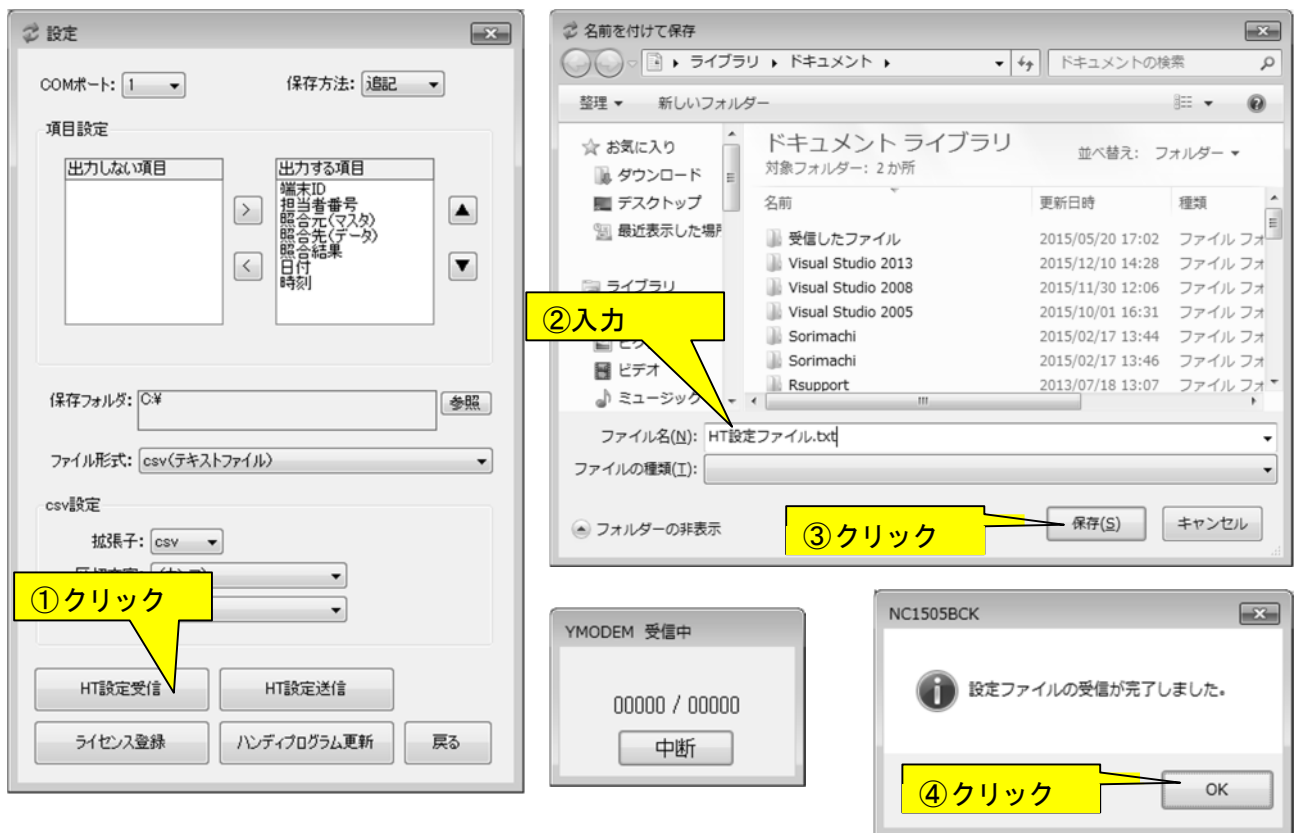
※補足/注意点※

- 受信時は、出力先のファイルは触らないで下さい。他のアプリケーションによってオープンされていると、受信後のファイル出力が失敗します。保存フォルダにファイルが作成できるか否か、事前にご確認ください。書き込み権限がないと、受信後のファイル出力が失敗します。
- 「受信」→「ファイル出力」という流れで処理が行なわれますが、「受信」が成功した段階で HT 側では送信済みデータは削除されます(削除しない設定も HT 側でできます)。上記などの原因により、「受信」が成功した後に「ファイル出力」が失敗した場合、データが失われてしまわないように、本プログラムは次のように振る舞います。
- 前回、「受信」が成功し、かつ「ファイル出力」が失敗している場合に[受信]ボタンがクリックされると、「前回受信分がファイル出力に失敗しています。前回分のファイル出力を行いますか?」というアラームが表示されます。ここで[はい]をクリックすると、前回受信したファイルをファイル出力します。[いいえ]をクリックすると、新たなデータを受信します(この場合、**前回分のデータは失われますので十分ご注意ください**)。

5-2.HT 設定受信

HT 側プログラムの「システム設定」で設定された情報をファイルとしてPC 側に保管することができます。保管した情報は、HT で「システム設定」を誤って変更してしまった場合のバックアップにもなります。また、複数のHT で運用する場合、1台で設定した「システム設定」の内容を、他のHT にも反映させることができます。

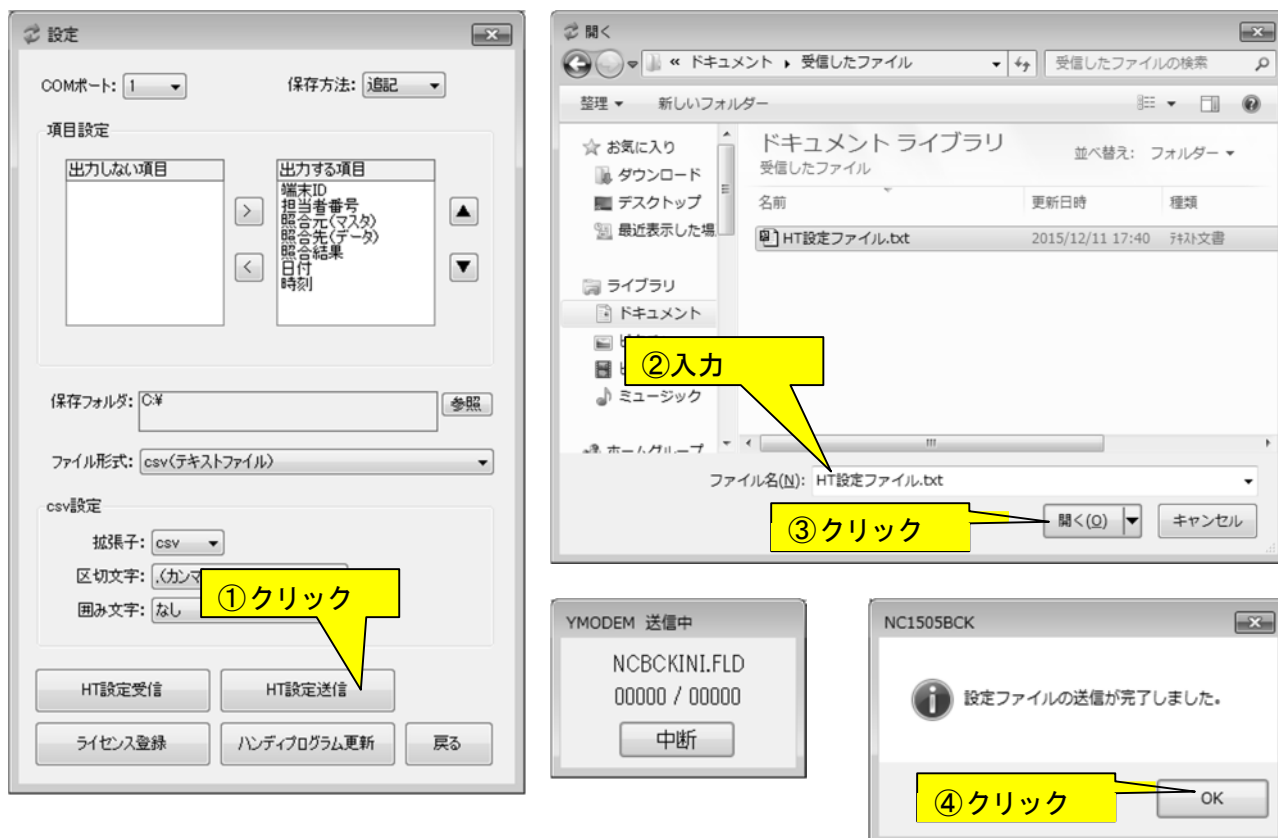
- (1) 設定画面で、[HT 設定受信]をクリック①します。
- (2) 「名前を付けて保存」ダイアログ画面が表示されますので、フォルダを選択して、ファイル名を入力②して、[保存]をクリック③してください。受信が開始され、「YMODEM 受信中」という画面で進捗が表示されます。
- (3) 「設定ファイルの受信が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック④してください。



5-3.HT 設定送信

HT 設定受信にて受信し保存した「システム設定」情報ファイルを、HT へ送信します。送信先 HT の「システム設定」情報が更新されます。

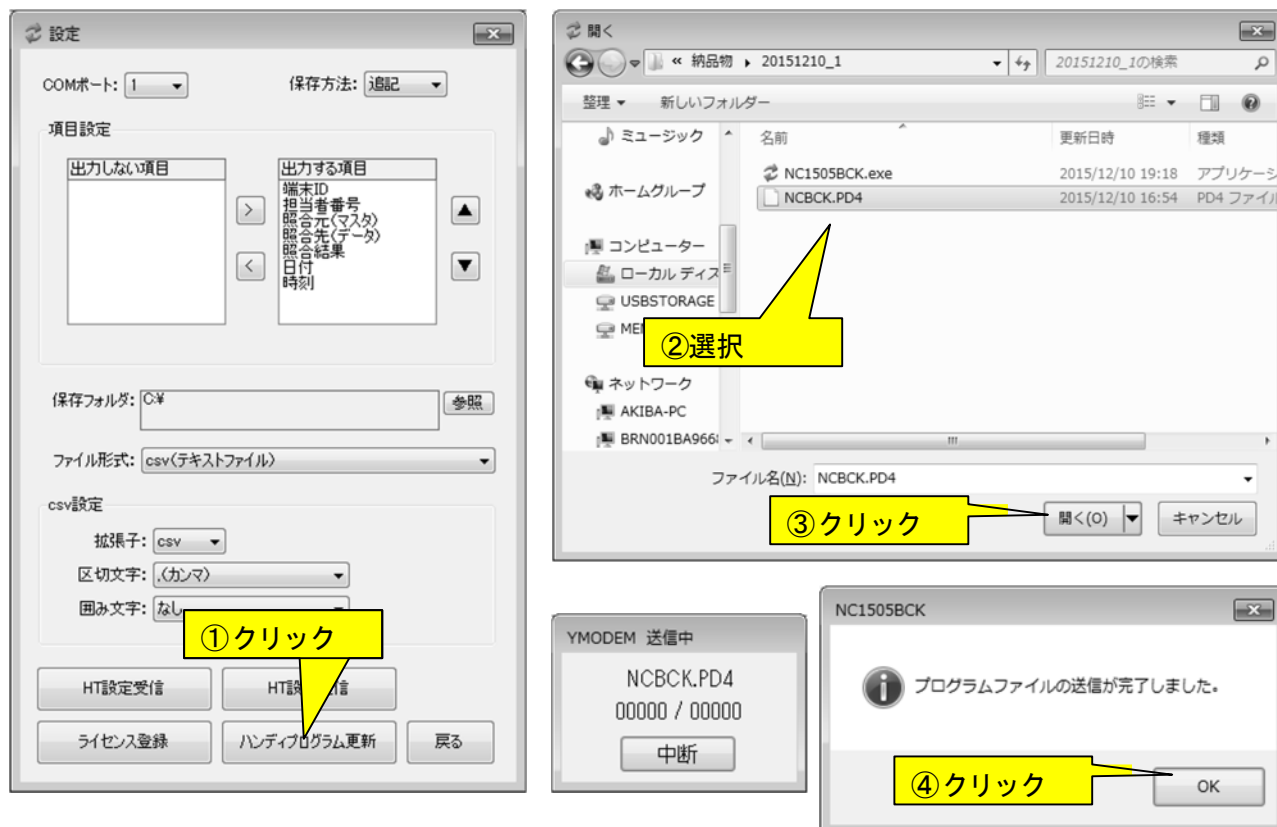
- (1) 設定画面で、[HT 設定送信]をクリック(①)します。
- (2) 「開く」ダイアログ画面が表示されますので、「システム設定」情報ファイルを選択して、[開く]をクリック(③)してください。送信が開始され、「YMODEM 送信中」という画面で進捗が表示されます。
- (3) 「設定ファイルの送信が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック(④)してください。



5-4.ハンディプログラム更新

HT 側プログラムに問題がある場合、弊社から最新の HT プログラムを提供させていただく可能性があります。本処理は、その場合に HT へプログラムを送信する機能です。

- (1) 設定画面で、[ハンディプログラム更新]をクリック(①)します。
- (2) 「開く」ダイアログ画面が表示されますので、HT プログラムファイルを選択(②)して、[開く]をクリック(③)してください。送信が開始され、「YMODEM 送信中」という画面で進捗が表示されます。
- (3) 「プログラムファイルの送信が完了しました。」という画面が表示されたら、処理は完了です。[OK]をクリック(④)してください。



◆HT 側のプログラム受信方法◆

- (1) HT の電源を OFF にしてください。
- (2) [SF]と[1]を押したまま、電源ボタンを押します。「SYSTEM MENU」が表示されます。※表示されない場合、一旦電源を切って、やり直して下さい。
- (3) [2]を押します。[2:DOWNLOAD]が選択状態になります。
- (4) [ENT]を押します。[DOWNLOAD]が表示されます。
- (5) [1:FILE]が選択されていますので、そのまま[ENT]を押します。[DOWNLOAD FILE]と[** Waiting **]が表示されます。この状態でCU に置いて、PC 側で上記の操作を行って下さい。

※[Communication error]が表示された場合、[ENT]を押すと、再度受信待ち状態となります。

- (6) プログラム受信が完了すると、「** Completed **」と表示されますので、そのまま電源を切って下さい。
- (7) 再度、電源を入れると、新しいプログラムが実行されます。

※注意※

上記で記載した「SYSTEM MENU」は、様々な設定の変更が可能な画面であるため、上記で記した操作以外は絶対に行なわないでください。HT が正しく動作しなくなる可能性があります。

6. HT 側操作

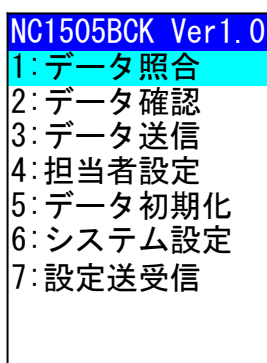
6-1 基本操作

ここでは、HT の基本的な操作や振る舞いについてご説明します。

- 電源を入れたり、切ったりするには本体下部にある、[⏻]キーを押して下さい。
- 電源を入れた状態で一定時間放置すると、自動的に電源が切れます(時間は[システム設定]-[自動電源OFF]にて設定が行えます)。
- 電源が切れた後、再度電源を入れると、前回電源が切れた画面から処理が再開されます。
- [M1]キーを長押し(1 秒間押し続ける)すると、[システム設定]にて行えない以下の設定が行えます。再度、[M1]を長押しすると元の画面に戻ります。
 - 「ブザー音量」・・・[F5]/[F6]キーで「ブザー音量」を選択状態にし、[F7]/[F8]で音量を調節します。
 - 「バイブレータ」・・・[F5]/[F6]キーで「バイブレータ」を選択状態にし、[F7]/[F8]でバイブレータのON/OFF を設定します(バイブレータの設定は[システム設定]-[音(バイブ)]でも行えます)。
 - 「明るさ(通常)」・・・[F5]/[F6]キーで「明るさ(通常)」を選択状態にし、[F7]/[F8]で通常時の画面の明るさを設定できます。
 - 「明るさ(省電力)」・・・[F5]/[F6]キーで「明るさ(省電力)」を選択状態にし、[F7]/[F8]で省電力時の画面の明るさを設定できます。
 - 「省電力」・・・[F5]/[F6]キーで「省電力」を選択状態にし、[F7]/[F8]で「明るさ(通常)」から「明るさ(省電力)」になるまでの時間を設定できます。
- [BS/C]キーは、押してすぐ離すと[BS]キー(入力中の文字を一文字戻る)、長押し(1 秒間押し続ける)すると[C]キー(中止/入力中の文字をクリアー)として機能します。
- バーコードを読み取るには、[SCAN]キーを押したまま読み取ります。何か読み取るか、5 秒間押し続けると読み取り光が消えるので、再度読み取りを行う場合は、一旦、[SCAN]キーを離してから、再度押して下さい。
- 各メニューでは、[F5]/[F6]で項目を移動するか、行先頭の番号をテンキーで押して選択状態とした後、[ENT]を押すと、その処理が開始されます。
- 照合結果の保存件数は、最大 5 万件です。

6-2. メインメニュー

最初に電源を入れた時に表示される画面です。各処理を分岐します。



- (1) [1]～[7]キーを押すか、[F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、各処理へ進みます。

6-3.データ照合

本システムの主処理となるデータ照合を行う画面です。本システムでは、2つのパターンで照合が行えます。どちらのパターンで照合するかは、[システム設定]-[照合]-[照合回数]にて設定を行います。

- 1:1照合…ある1つのバーコードと、他の1つのバーコードとの照合を行い、それを繰り返します。
- 1:N照合…ある1つのバーコードと、他の複数のバーコードとの照合を行います。

6-3-1.データ照合の流れ (1:1)

照合(1:1) 00000
マスタバーコード
をスキャンしてく
ださい。

M1:終了

■マスタバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
- (2) [SCAN]キーを押下して、マスタバーコード(照合元)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、データバーコード読み取り画面へ進みます。
- (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合元(マスタ)]にて事前に設定して下さい。

照合(1:1) 00000
マスタバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
データバーコード
をスキャンしてく
ださい。

M1:終了 M2:戻る

■データバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
- (2) [SCAN]キーを押下して、データバーコード(照合先)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、照合結果を表示します。
- (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
- (4) [M2]キーを押すと、照合を行わず、マスタバーコード読み取りへ戻ります。
※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合先(データ)]にて事前に設定して下さい。
※マスタとデータバーコードの照合位置は、[システム設定]-[照合]-[照合桁]にて事前に設定して下さい。照合チェックにバーコード種も含むか否かは、[システム設定]-[照合]-[照合条件]にて事前に設定して下さい。

照合(1:1) 00001
マスタバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
データバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
10/06 15:20:23
照合OK

■照合OK画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
- (2) 「照合OK」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
- (3) 3秒間経過すると、マスタバーコード読み取り画面へ戻りますので、次の照合を行って下さい。
※3秒間経過しなくても、次のマスタバーコードの読み取りが行えます。
※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

照合(1:1) 00001
マスタバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
データバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
10/06 15:20:23
照合NG

M2:確認

■照合NG画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
- (2) 「照合NG」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
- (3) [M2]キーを押すと、設定によりマスタ/データバーコード読み取り画面へ戻ります。
※[M2]キーを押した時にどちらの画面に戻るかは、[システム設定]-[照合]-[NG時取り扱い]にて事前に設定して下さい。
※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

6-3-2.データ照合の流れ (1:N)

照合(1:N) 00000
 マスタバーコード
 をスキャンしてく
 ださい。

M1:終了

■マスタバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
 - (2) [SCAN]キーを押下して、マスタバーコード(照合元)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、データバーコード読み取り画面へ進みます。
 - (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
- ※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合元(マスタ)]にて事前に設定して下さい。

照合(1:N) 00000
 マスタバーコード
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 データバーコード
 をスキャンしてく
 ださい。

M1:終了 M2:戻る

■データバーコード読み取り画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
 - (2) [SCAN]キーを押下して、データバーコード(照合先)を読み取って下さい。読み取りが正常に行なわれると、照合結果を表示します。
 - (3) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
 - (4) [M2]キーを押すと、照合を行わず、マスタバーコード読み取りへ戻ります。
- ※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[照合先(データ)]にて事前に設定して下さい。
- ※マスタとデータバーコードの照合位置は、[システム設定]-[照合]-[照合桁]にて事前に設定して下さい。照合チェックにバーコード種も含むか否かは、[システム設定]-[照合]-[照合条件]にて事前に設定して下さい。

照合(1:N) 00001
 マスタバーコード
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 データバーコード
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 10/06 15:20:23
 照合OK

■照合OK画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
 - (2) 「照合OK」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
 - (3) 3秒間経過すると、データバーコード読み取り画面へ戻りますので、次の照合を行って下さい。
- ※3秒間経過しなくても、次のデータバーコードの読み取りが行えます。
- ※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

照合(1:N) 00001
 マスタバーコード
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 データバーコード
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 10/06 15:20:23
 照合NG
 M2:確認

■照合NG画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存件数が表示されます。
 - (2) 「照合NG」と「日時」が表示され、照合データが保存されます。
 - (3) [M2]キーを押すと、設定によりマスタ/データバーコード読み取り画面へ戻ります。
- ※[M2]キーを押した時にどちらの画面に戻るかは、[システム設定]-[照合]-[NG時取り扱い]にて事前に設定して下さい。
- ※データ保存の有無と保存箇所は、[システム設定]-[データ保存]にて事前に設定して下さい。

6-4.データ確認

データ照合を行い、保存されたデータを確認する画面です。データの削除も可能です。

```
確認 00010/00010
マスタバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
データバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
10/06 15:20:23
照合OK
M1:終了 F4:削除
```

■データ確認画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存位置と件数が表示されます。
 - (2) [F6]または[F8]キーを押すと、次のデータを表示します。
 - (3) [F5]または[F7]キーを押すと、前のデータを表示します。
 - (4) 削除したいデータを表示した状態で、[F4]キーを押すとデータ削除画面に進みます。
 - (5) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。
- ※[システム設定]-[データ保存]にて、「照合箇所にて保存」が設定されていると、ここでは読み取ったバーコード値ではなく、保存されている照合箇所だけが表示されます。

```
確認 00010/00010
マスタバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
データバーコード
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXX
削除しますか？
M1:戻る F1:了解
```

■データ削除画面■

- (1) 画面右上には、照合結果の保存位置と件数が表示されます。
- (2) [F1]キーを押すと、表示データを削除してデータ確認画面へ戻ります。
- (3) [M1]キーを押すと、何もせずにデータ確認画面へ戻ります。

6-5.データ送信

データ照合を行い、保存されたデータをPCへ送信する画面です。

送信 送信しますか？
M1:終了 ENT:送信

■データ送信画面■

- (1) [ENT]キーを押すと、クレードル設置指示画面を表示します。
- (2) [M1]キーを押すと、処理を終了してメインメニューへ戻ります。

送信 クレードルに設置 してください。
C:中止

■クレードル設置指示画面■

- (1) CU（クレードル）に置いて、PC から[受信]を開始すると通信が行なわれます。送信が完了すると、送信完了画面が表示されます。異常終了するとエラー画面が表示されます。
- (2) [C]キーを長押しすると、処理を中止してエラー画面を表示します。

送信 送信正常終了しま した。
M1:終了

■送信完了画面■

- (1) [M1]キーを押すと、メインメニューへ戻ります。
※[システム設定]-[送信後データ]にて、「消去」が設定されていると、保存データが削除されます。

送信 送信異常終了しま した。
ERL:0x00000 ERR:0x00000
F4:確認

■送信完了画面■

- (1) [F4]キーを押すと、メインメニューへ戻ります。
※[システム設定]-[送信後データ]にて、「消去」が設定されていても、保存データは削除されません。

6-6.担当者設定

担当者コードを設定します。この情報は照合データの各レコードに保存されます。

担当者設定
現在の担当者 [XXXXXXXXXXXX]
新しい担当者 []
M1:戻る ENT:確定

- (1) 3行目には現在設定されている値が表示されます。
- (2) 手入力の場合は、テンキーを使って入力してください(最大 13桁)。文字や記号を入力する場合は、[SF]キーを押すと数字入力と英字入力が切り替わります。
- (3) バーコードを使用する場合は、[SCAN]キーを押したまま読み取って下さい。13桁より大きい場合は、最初の13桁だけが有効です。
- (4) [ENT]キーを押すと、入力/読み取られた値で設定を登録し、メインメニューへ戻ります。
- (5) [M1]キーを押すと、何もせずに、メインメニューへ戻ります。
※読み取るバーコードは、[システム設定]-[バーコード]-[担当者]にて事前に設定して下さい。

6-7.データ初期化

不要となったデータ、または送信済みのデータを削除する機能です。未送信のデータも削除できますので、十分ご注意ください。

データ初期化
データを初期化しますか?
M1:終了 F4:実行

- 初期化確認画面■
- (1) [F4]キーを押すと、保存されているデータを削除して、初期化結果画面へ進みます。
 - (2) [M1]キーを押すと、何もせずに、メインメニューへ戻ります。

データ初期化
データを初期化しました。
M1:終了

- 初期化結果画面■
- (1) [M1]キーを押すと、メインメニューへ戻ります。

6-8.システム設定

本システム全体の設定を行います。システム設定メニューでは、各設定を分岐します。

システム設定
1: 照合
2: データ保存
3: 送信後データ
4: バーコード
5: 端末 ID
6: 日時
7: 自動電源 OFF
8: 音(バイブ)
M1: 終了 C: 初期化

- (1) [C]キーを長押しするか、[1]~[8]キーを押すか[F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、各処理へ進みます。

6-8-1 照合設定

照合設定
1: 照合回数
2: 照合桁
3: 照合条件
4: NG 時取り扱い
M1: 終了

- (1) [1]～[4]キーを押すか[F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、各処理へ進みます。
- (2) [M1]キーを押すと、メインメニューへ戻ります。

6-8-1-1 照合回数

データ照合処理のタイプを、1:1照合にするか、1:N照合にするかと設定します。

照合回数
1:1
1:N
M1: 戻る ENT: 確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、照合設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずに照合設定画面へ戻ります。

6-8-1-2 照合桁

読み取ったバーコードのうち、どの部分を照合するかを設定します。

例1) マスタ開始桁を 3、データ開始桁を 5、照合桁数が 6 と設定した場合で、

マスタバーコード: 1234567890、データバーコード: 123434567890

と読み取られた場合、設定されている箇所は一致するので、この場合は照合 OK となります。例

2) マスタ開始桁を 3、データ開始桁を 5、照合桁数が 6 と設定した場合で、

マスタバーコード: 1234567890、データバーコード: 1234567890

と読み取られた場合、設定されている箇所は一致しないので、この場合は照合 NG となります。

照合桁
マスタ開始桁
[1] (1~99)
データ開始桁
[1] (1~99)
照合桁数
[20] (1~99)
M1: 戻る ENT: 確定

- (1) 入力対象は黄色い行で表示されます。入力対象は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) それぞれ、1～99 の値が入力可能です。
- (3) 最後に、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、照合設定画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに照合設定画面へ戻ります。

6-8-1-3 照合条件

バーコードの種類が異なる場合に、照合 OK とするか NG とするかを設定します。
例えば、マスタバーコードが、Code39 で「12345」というバーコードが読み取られたとして、データバーコードが、Code128 で「12345」というバーコードが読み取られた場合、「バーコード種含む」と設定している場合は、照合 NG となります。「データのみ」と設定している場合は、照合 OK となります。

照合条件
バーコード種含む
データのみ
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、照合設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずに照合設定画面へ戻ります。

6-8-1-4 NG時取り扱い

照合 NG となった場合に、マスタバーコードの読み取りに戻るか、データバーコードの読み取りに戻るかを設定します。
「終了」と設定している場合は、マスタバーコードの読み取りに戻ります(いま行った照合を終了します)。「続行」と設定している場合は、データバーコードの読み取りに戻ります(いま行った照合を別のものので再度行います)。

NG 時取り扱い
終了
続行
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、照合設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずに照合設定画面へ戻ります。

6-8-2.データ保存設定

データの保存方法について設定します。

- 「全て保存」…保存データの中に、読み取られたバーコード値すべてを保存します。
- 「保存しない」…保存データを作成しません(照合チェックのみ)。
- 「照合箇所のみ保存」…保存データの中に、照合した箇所の値を保存します。

※照合箇所とは、[システム設定]-[照合]-[照合桁]でバーコード値から抜き出した部分です。

データ保存設定
全て保存
保存しない
照合箇所のみ保存
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

6-8-3.送信後データ設定

データ送信後にデータを消去するか否かを設定します。

送信後データ設定
消去
保存
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

6-8-4 バーコード設定

マスタバーコード、データバーコード、担当者で、それぞれの読み取り対象バーコードを設定します。

バーコード設定
1: 照合元 (マスタ)
2: 照合先 (データ)
3: 担当者
M1: 終了

- (1) [1]~[4]キーを押すか[F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、各バーコードの設定へ進みます。
- (2) [M1]キーを押すと、システム設定画面へ戻ります。

6-8-4-1 バーコード種一覧

設定を行うバーコード種を選択します。

※ここでは、「照合元(マスタ)」を例にしていますが、その他の場合も操作は同様です。

照合元(マスタ)
*JAN13, UPC-A
*JAN8
*UPC-E
*ITF
*NW-7
*Code39
*Code93
*Code128, GS1-128
M1: 終了 ENT: 選択

照合元(マスタ)
*UPC-E
*ITF
*NW-7
*Code39
Code93
*Code128, GS1-128
*STF
*GS1-Databar
M1: 終了 ENT: 選択

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) そのバーコード種が読み取り対象となっている場合、先頭に「*」文字が表示されます。
- (3) [ENT]キーを押すと、選択行の設定画面へ進みます。
- (4) [M1]キーを押すと、バーコード設定画面へ戻ります。

6-8-4-2 JAN13,UPC-A

JAN13, UPC-A
読み取り
する しない
後ろ 1 文字除去
する しない
UPC-A 先頭 0 付加
する しない
M1: 戻る ENT: 確定

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ 1 文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。
「UPC-A 先頭 0 付加」・・・UPC-A の場合、先頭に"0"を付加します。

6-8-4-3 JAN8

JAN8	
読み取り	
する	しない
後ろ 1 文字除去	
する	しない
M1:戻る ENT:確定	

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ 1 文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。

6-8-4-4 .UPC-E

UPC-E	
読み取り	
する	しない
後ろ 1 文字除去	
する	しない
UPC-E 先頭 0 付加	
する	しない
M1:戻る ENT:確定	

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ 1 文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。

「UPC-E 先頭 0 付加」・・・先頭に"0"を付加します。

6-8-4-5 .ITF (Interleaved Two of Five)

ITF	
読み取り	
する	しない
後ろ 1 文字除去	
する	しない
CD 検証(MOD-10)	
する	しない
M1:戻る ENT:確定	

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ 1 文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。

「CD 検証(MOD-10)」・・・モジュラス 10 でチェックデジットをチェックします。チェックデジットが間違っている場合、読み取れません。

6-8-4-6.NW-7 (CODABAR)

NW-7
読み取り
する <input type="checkbox"/> しない
後ろ 1 文字除去
<input type="checkbox"/> する しない
CD 検証(MOD-16)
<input type="checkbox"/> する しない
Start, Stop 出力
<input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> しない
M1:戻る ENT:確定

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ 1 文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。
 「CD 検証(MOD-16)」・・・モジュラス 16 でチェックデジットをチェックします。チェックデジットが間違っている場合、読み取れません。
 「Start,Stop 出力」・・・スタート・ストップ文字を大文字か小文字で出力、または出力しません。

6-8-4-7.Code39

Code39
読み取り
する <input type="checkbox"/> しない
後ろ 1 文字除去
<input type="checkbox"/> する しない
CD 検証(MOD-43)
<input type="checkbox"/> する しない
Start, Stop 出力
<input type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> しない
M1:戻る ENT:確定

- (1) 選択は黄色い行で表示されます。選択は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (2) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (3) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

「後ろ 1 文字除去」・・・チェックデジット部分を取り除きます。
 「CD 検証(MOD-43)」・・・モジュラス 43 でチェックデジットをチェックします。チェックデジットが間違っている場合、読み取れません。
 「Start,Stop 出力」・・・スタート・ストップ文字を大文字か小文字で出力、または出力しません。

6-8-4-8.Code93

Code93
読み取り
する <input type="checkbox"/> しない
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F7]/[F8]キーで設定を切り替えます。
- (2) [ENT]キーを押すと、設定を保存して、一覧画面へ戻ります。
- (3) [M1]キーを押すと、何もせずに、一覧画面へ戻ります。

6-8-5 端末 ID 設定

端末 ID を設定します。この情報は照合データの各レコードに保存されます。

端末 ID 設定
端末 ID
0001]
M1:戻る ENT:確定

- (1) テンキーで値を入力し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

6-8-6 日時設定

システム日時を設定します。この情報は照合データの各レコードに保存されます。

日時設定
日付
15/12/31]
時刻
[12:13:14]
M1:戻る ENT:確定

- (1) 値はテンキーで入力します。
- (2) 入力対象は黄色い行で表示されます。入力対象は、[F5]/[F6]キーで移動します。
- (3) 最後に[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (4) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

6-8-7 自動電源 OFF 設定

操作せずに放置した場合に、電源が自動的に切れるまでの時間を設定します。

自動電源 OFF 設定
10 秒
30 秒
1 分
3 分
5 分
10 分
30 分
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

6-8-8.音(バイブ)設定

音やバイブレータの設定を行います。

音(バイブ)設定
通常設定
音ありバイブあり
音ありバイブなし
音なしバイブあり
音なしバイブなし
通常設定は音あり
エラー時バイブ
M1:戻る ENT:確定

- (1) [F5]/[F6]キーで行を選択し、[ENT]キーを押すと、設定を保存して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

※音量の設定については、「6-1.基本操作」の「ブザー音量」を参照してください。

6-8-9.設定初期化

すべてのシステム設定を、購入時状態に戻します。

設定初期化
設定を初期化しま
すか？
照合データは削除
されません。
M1:終了 F4:実行

- (1) [F4]キーを押すと、設定を初期化して、システム設定画面へ戻ります。
- (2) [M1]キーを押すと、何もせずにシステム設定画面へ戻ります。

7 販売者情報

システムのトラブルや不具合については、下記メールアドレスまで、ご連絡ください。
本システムのアップデートなどの最新情報は下記 URL に記載しておりますので、ご確認ください。

日栄インテック株式会社

バーコード情報サイト **検索** 
www.barcode.ne.jp

メール：info@barcode.ne.jp